

俳画風味

俳画は作品を仕上げるだけでなく、異なるもの同士の出会いを大切にしているプログラムです。作品をつくるタイプのプログラムはいろいろありますが、この活動は、「出会い」ということを考えたり感じたりするのによりプログラムです。

ねらい

感性をもとに表現する、というねらいとともに、物事が完成していく過程で、他の人やものとの出会いが重要であることに気づく。さらに、異質な物が出会って美しいものができあがる日本人の感覚（ミスマッチによるマッチング）について感じ取れるようになる。

達成目標

- ・感性を使って表現したものが重要であることを受け入れられるようになる。
- ・他の人との出会いによって、作品が仕上がり、大きな満足感が得られることを知る。
- ・異質な物が出会って一つのバランスが生まれる、という感覚についてコメントできるようになる。



導入

俳画というものについての説明。特に、「簡をもってよしとす」「余白を楽しむ」「異質なもの・他者との出会い」について説明するとともに、作業内容について説明する。

ふりかえり・わかちあい

作業を通して感じたこと気づいたことを紹介しあう。特に、ミスマッチによるマッチング、ということについてどのように感じたか、という指摘をするとよい。

実施のポイント

「簡をもってよしとす」とは、用紙に絵をごちゃごちゃと書き込まない。簡素の美しさを表現すること。「余白を楽しむ」とは、用紙全体に書き込んでしまわないで、余白が美しいバランス・美を生み出すことを意識して作品を創ること。「異質なもの・他者との出会いを楽しむ」とは、絵とストレートに関連がない句をあてることによって、おもしろみが出ること、の三つを意識させるとよい。

◆所要時間	60分
◆人数	10人～40人
◆関連教科等	総合的な学習の時間、国語、 図画工作
◆焦点を当てる能力	感じる、書く、描く、 自分の意見を表現する
◆準備するもの	画材（色鉛筆、クレヨンなど）、 固い紙を四角に切ったもの
◆安全のポイント	活動の範囲を明確に指示する

本体

まず、「俳句でハイク」のプログラムを実施する（無記名にする）。次にワークシートにある四角（色紙にみたてている。堅めの紙を使うと効果的に、自然の中で感じたもの（俳句とは別のもの）をスケッチする（色をつけてもよい）。自分の絵に書き込む句を選ぶ（他の人の句とする。絵の内容をストレートに表現しているものは選ばない→コツ！）。絵に言葉を書き込んで完成。みんなで紹介しあう。誰の句を選んだか句を読んだ人に名乗り出てもらい、出会いを楽しむ。

まとめ

日本人の美という感覚について何らかの事例を用いて紹介するとよい。

評価の視点

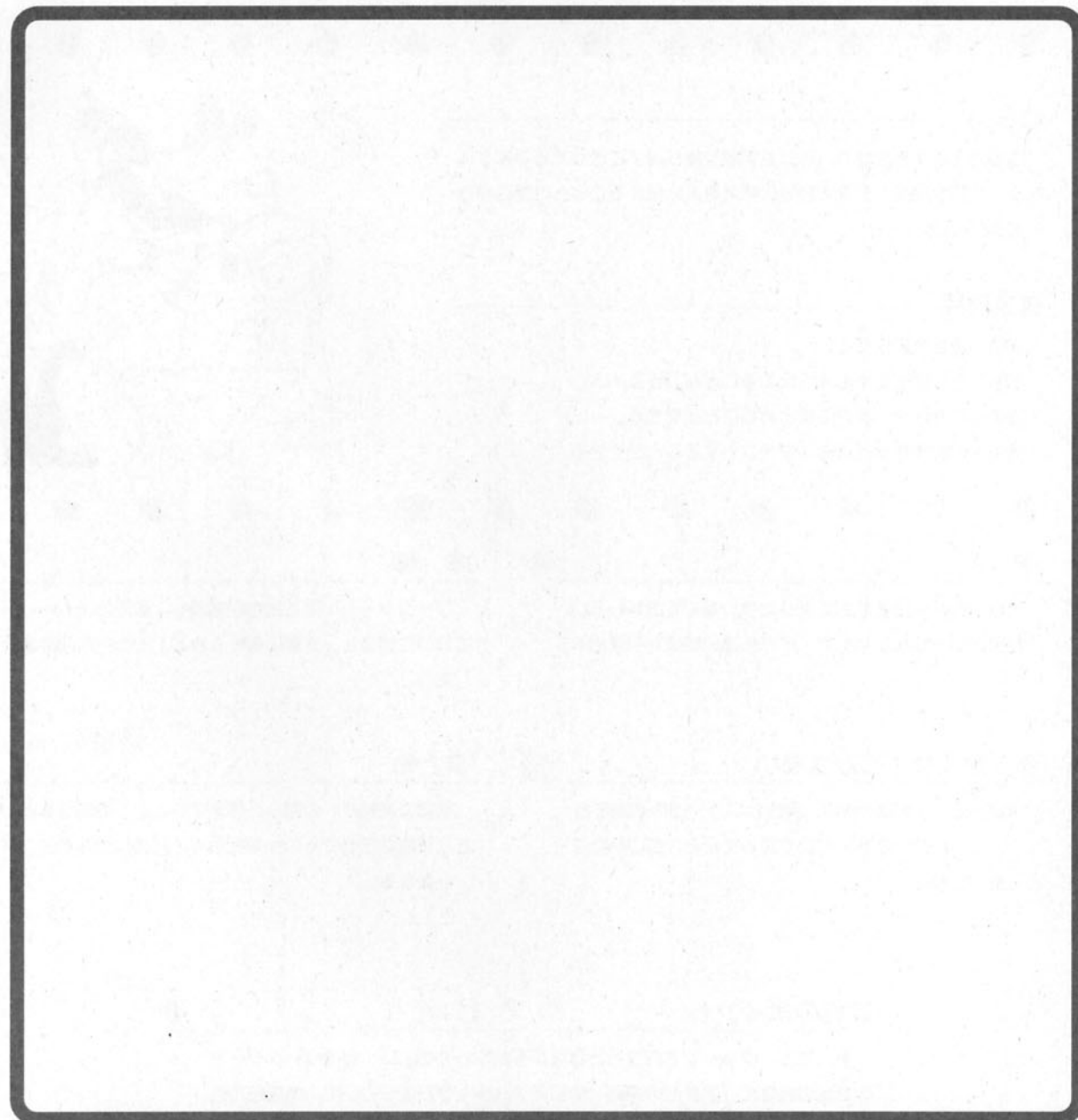
上手な作品を作り上げられることもあるが、むしろ日本的な美の意識について何かを感じ取り、コメントできることを評価の対象としたい。

発展・応用

絵手紙、という方法もある。
活動のまとめとして、日めくりカレンダーのような作品づくりをする方法もある。

西田 真哉 氏のオリジナルプログラムをアレンジして掲載

◆ 自分の絵と他の人の句をくみあわせてみましょう。



だれ
誰の句？

《俳画風味のころろ》

- 簡かんをもってよしとす。（用紙がごちゃごちゃにならないようにしましょう）
- 余白よはくを楽しむ。（余白にも美しさがあります）
- 異質いしつなもの・他者たしやとの出会いであを楽しむ。
（自分以外の人やものとの出会いを楽しみましょう）

年 月 日 名前